

# 3 情報モラルの指導につながる

- 1 情報モラルステップ2
- 2 情報モラルあるある事例からのヒント集
- 3 情報モラルで活用できる教材、リンク集
- 4 保護者と連携する情報モラル
- 5 Google Jamboard・スライドで情報モラル
- 6 Google スプレッドシート・ドキュメントで情報モラル
- 7 カメラ・Googleフォームで情報モラル
- 8 Google Classroom・ドライブで情報モラル
- 9 ミライシードで情報モラル
- 10 Google Meet・YouTubeで情報モラル
- 11 健康面に配慮した端末の使い方



# 3-1-1 情報モラルステップ2

令和4年度も引き続き「IDとパスワードの大切さ(情報セキュリティ)」の指導は必須です



令和3年度は、クラウド利用のため全児童生徒・教職員等に1人1アカウント(IDとパスワード)を配付しました。これまでの情報モラル教育とともに、GIGA端末の効果的かつ安全・安心な活用を進めるため、特に「端末・アカウント(ID)・パスワードを適切に取り扱う情報セキュリティ」等を最低限必要な内容として指導することになっていました。令和4年度では、さらに学習活動における端末の日常的な活用が進むと考えられます。そのため、**情報モラルの基本的な指導として、「アカウントの管理についての指導」はますます重要**となります。



友達のIDとパスワードで勝手にログインすると「不正アクセス禁止法」の違反につながります。



## 情報モラルステップ0・1(令和3年度)

情報モラルステップ「0(ゼロ)・1」とは？

- ①ID・パスワード管理等の情報セキュリティ
- ②「写真・動画撮影」に伴う公開性、記録性等の情報社会の特性(インターネットの特性・仕組み)の理解
- ③「ネット検索」等の情報リテラシーや「情報の伝わり方」の違い等

の内容について各学校の実態に応じて指導

## 3-1-2 情報モラルステップ2

トラブル発生時の必然性のある指導とともに、**各教科等で情報モラル教育を進めます**

GIGAスクール構想がスタートして...

授業中にトラブル発生！



その場面ですぐに効果的な指導が可能に！

合言葉は「ICT」...「いつもちょっとトラブル」で、令和4年度も前向きな指導を！

「ICT」の略称として、「I=いつも、C=ちょっと、T=トラブル」と言われる程、機器のトラブルだけではなく1人1台というGIGA端末の学習環境のもとでは、児童生徒同士のトラブルは日常的に起こるものです。

起こってしまったトラブルが「児童生徒の判断力育成のためのチャンス！」として前向きに捉え、指導に取り組んでいきましょう。

各教科等の授業で共通した指導が必要

「そのコメントは相手がどう思いますか？」

「もしやり直せるとしたら...  
どうすればよかったですか？」



「クラウドには記録が残っていますよ。  
SNSも同じ仕組みですね！」

令和4年度は、児童生徒の発達段階に応じた各教科等における情報モラル教育を進めます

情報モラル・情報セキュリティは、各教科等どの学習場面、内容であっても育むべき資質・能力である情報活用能力です。各教科等での特有の部分もありますが、共通した内容としては、次が考えられます。

- クラウド上には、一度送信した情報や記録が消えずに残る、公開される等の「インターネットの仕組み」を理解
- 相手を思いやる等の「日常的なモラル」を育む

# 3-2-1 情報モラルあるある事例からのヒント集



1人1台端末時代となり、端末を活用した学習が容易にできるようになったという良い点がある一方で、情報モラルに関するトラブル(学習に関係のないことをする等)が各学校で起こきていることが報告されています。

ICT(いつもちょっとトラブル)とは言うものの、各学校ではどのように指導を進めているのでしょうか？GSLとのお話から解決策を探っていきます。

## あるある事例 その1



学校で学習に関係のないことをしています。  
「学校で、ゲームはやっちゃダメ～(怒)」などと、注意してもなかなかゲームをやめません…。どうしたらよいですか？

## GSLからの「一言ヒント」

GSL



ポイントは3つです。  
①発達の段階に応じた約束  
②約束(目的)の定期的な確認 ※タイミングが重要  
③学級活動での話し合いや全体での指導

「それダメよ～」と禁止ばかりで注意するのではなく「GIGA端末は何のための道具でしたか？」等と端末活用の目的を確認したり気付かせたりすることを促すことが大切です。



# 3-2-2 情報モラルあるある事例からのヒント集

## あるある事例 その2

Google Classroom

オクリンク

Jamboard

等々で...



子どもたちがGoogle Classroomのストリームに次々と投稿してしまいました。またJamboardに必要な書き込みをしたり、オクリンクで不適切な内容の書き込みを送り合ったりしています。また、友達の書き込みを間違えて消してしまったり、書き換えてしまったりする子どもたちがいます。どうすればよいでしょうか...？

「日常からのトラブル発生」は「成長のチャンス」と捉えて...

社会に出る前に、失敗を経験して...日々のインターネット・クラウドの体験・経験から、「情報モラルにおける判断力」の育成・発揮を！

## GSLからの「一言ヒント」

GSL

トラブル発生時は、次のポイントでの指導が大切です

- ①GIGA端末の約束・目的を確認して再検討する
- ②自分の意思の表明の仕方、伝え方を皆で考える
- ③アプリの「履歴」機能を使い「インターネットは記録が残る」等の情報モラルに関わる指導を適宜実施

各アプリの「履歴」機能を使い、情報モラル教育であるインターネットの特性(記録が残る、みんなに見られる等)の理解を深めるとともに、資質・能力を育成するチャンスです。(詳しくは、3【情報モラルの指導につながる】7~12を参照)安易な情報公開はしてはいけない等のSNSの使い方を考えさせるきっかけにもなります。



## 3-3 情報モラルで活用できる教材、リンク集

### 1. 情報モラル教育の充実

児童生徒向け啓発資料・教員向け指導資料等・普及イベント等の紹介

文科「情報モラル教育の充実」出典:「情報モラル教育の充実」(文部科学省)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1369617.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369617.htm)

### 2. 情報モラル教育の動画やワークシート等の授業教材の紹介

JAPET & CEC「ネット社会の社会の歩き方」<https://www.japet.or.jp/>

### 3. 情報モラル教育の講演会やガイドライン(保護者向け)等の紹介

安心ネットづくり促進協議会 出典:「もっとグッドネット」 <https://www.good-net.jp/>

### 4. 情報モラルの川崎市の実態や学校ごとの実態に応じた、 職員研修、児童生徒向け授業、保護者向け講演会

お助けネット [http://edu-net.co.jp/?page\\_id=21](http://edu-net.co.jp/?page_id=21)

## 3-4 保護者と連携する情報モラル

1. 情報モラルとはどのようなものか認識を共有しましょう

情報モラル



日常的なモラル



インターネットの仕組み



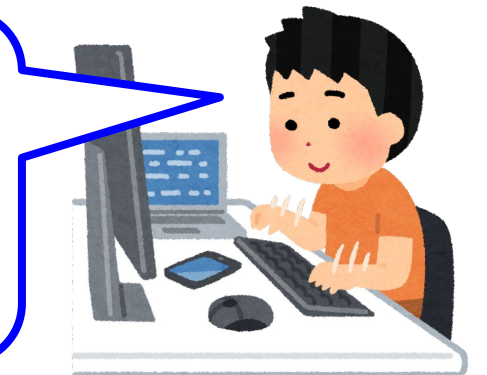
- ・相手の気持ちを考えよう
- ・約束やきまりを守ろう

- ・公開性(見られる)
- ・記録性(残る)
- ・流出性(広まる)
- ・非対面性(伝わりにくい)

2. 情報モラルの共通認識の下で学校や家庭での情報機器の使い方を確認しましょう(子どもたちと一緒にルールづくりをしましょう)

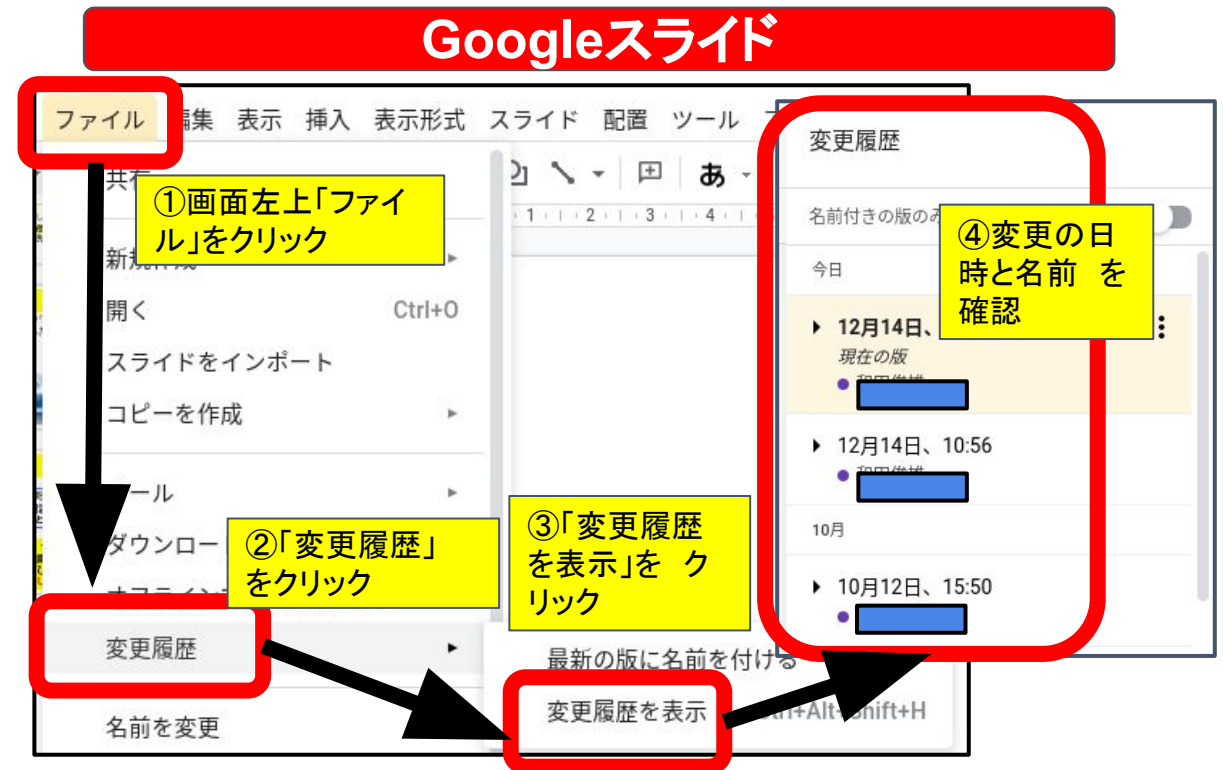
### 情報機器の使い方、ルールづくりのポイント

- ・機器は何のためにあるのか。何に使用するのか。目的を確認しましょう。
- ・IDやパスワードのような個人情報は第三者に教えたりしてはいけません。
- ・メッセージやメールを送る時には文章をしっかり確認しましょう。
- ・著作権や肖像権を侵害したりしていないかいつも確認をしましょう。



# 3-5 Google Jamboard・スライドで情報モラル

Google Jamboardは付箋を貼ったり、Googleスライドはコメントをつけたりして自分の考えをもちながら対話的な学習に生かすことができます。端末の操作に慣れると、故意に相手を傷つける内容を書き込んだり、付箋を拡大縮小・移動等をしたりスライドを削除したりすること等も考えられます。Google JamboardとGoogleスライドの「履歴」機能を活用することで「インターネットの仕組み」「記録性：一度発信した情報は全て削除することはできない」等)について各教科等の授業で必然性のある具体的な情報モラル教育の指導が可能です。



Google Jamboard及びGoogleスライドでは、「履歴」機能を使い「インターネットは、サーバ(保存領域)に記録され匿名性がない」ことを体験を通して学習できます。投稿するコメント等の内容に責任をもつとともに、友達の写真やノートを投稿する場合は「相手に必ず許可を取る」等の他者の権利を尊重する態度を育成することも大切です。



# 3-6 Googleスプレッドシート・ドキュメントで情報モラル

GoogleスプレッドシートやGoogleドキュメントは文書を簡単に作成するだけでなく、共同編集で意見集約等することが容易です。児童生徒が「共同で何かを作成できる」「友達の意見や考えが見える」ことの良さがありますが、授業中等に意見を表明するときに不快な思いをさせることを書き込んでしまう等のトラブルが起こることも考えられます。「履歴」機能を活用することで「インターネットの仕組み」「記録性：一度発信した情報は全て削除することはできない」等)について各教科等の授業で必然性のある具体的な情報モラル教育の指導が可能です。

## Googleスプレッドシート

①画面左上の「ファイル」

②「変更履歴」をクリック

③「変更履歴を表示」

④変更の日時と名前を確認

変更履歴

名前付きの版のみを表示する

昨日

▶ 12月14日、22:00  
現在の版

▶ 12月14日、19:30

変更履歴を表示 Ctrl+Alt+Shift+H

## Googleドキュメント

①画面左上の「ファイル」

②「変更履歴」をクリック

③「変更履歴を表示」

④変更の日時と名前を確認

変更履歴

名前付きの版のみを表示する

土曜日

12月11日、6:21  
現在の版

先週

12月7日、16:07

変更履歴を表示 Ctrl+Alt+Shift+H

Google スプレッドシート及びGoogleドキュメントでは、「履歴」機能を使い「インターネットは、サーバ(保存領域)に記録され匿名性がない」ことを体験を通して学習できます。また、**意見を書き込む際には、相手のことを考えた情報の発信をしていくことや個人情報を安易に書き込まないという「日常的なモラル」を育む指導も必要**です。

# 3-7 カメラ・Googleフォームで情報モラル

カメラ機能を使うことで、タイピング入力が難しい低学年の児童であっても学びを豊かにすることができます。Googleフォームを使い、アンケートにより児童生徒の考えの集計結果を瞬時に共有し、対話的な学習を効果的に行うことができます。便利な機能の一方で、撮影をする際の著作権や肖像権、アンケートで扱う個人情報の保護等について、各教科等での繰り返しの指導が必須です。

## カメラ機能



写真を撮る時は、次の2つを必ずする

- 写真を撮る許可を得る
- 撮った写真を使う目的を伝える

「肖像権」許可なしに撮影されない、公表されない権利

「著作権」作品(著作物)を作った人がもっている権利

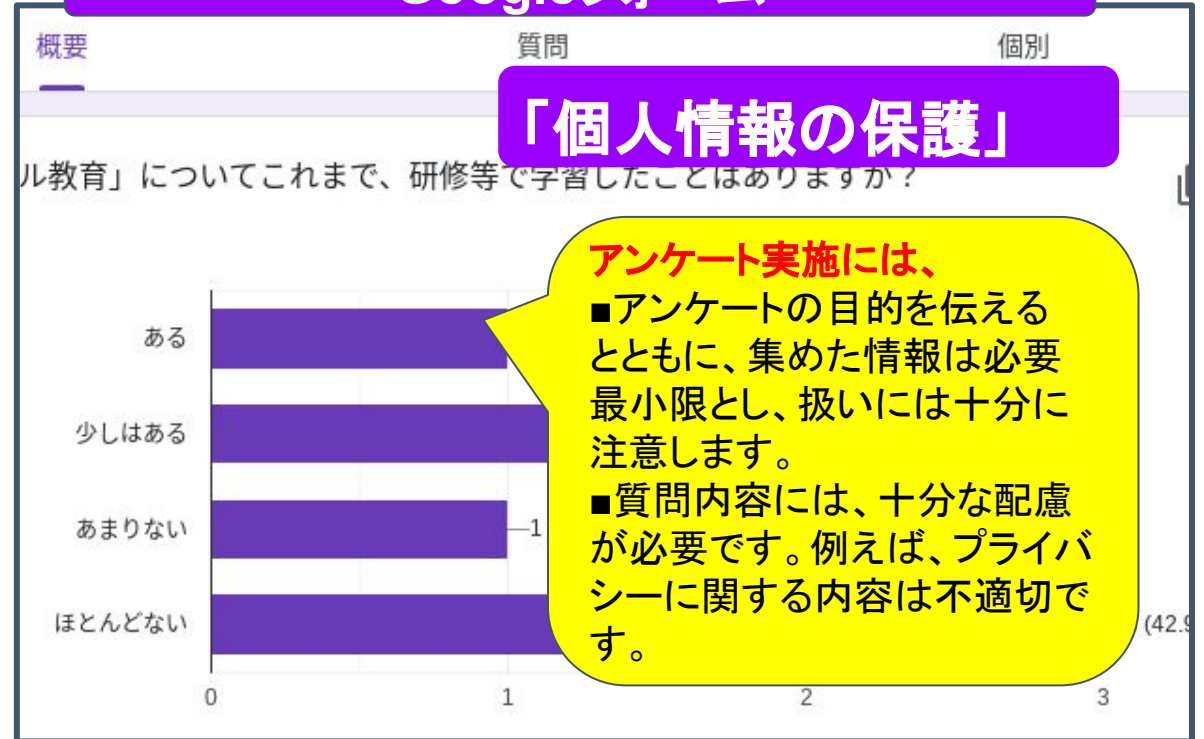
「著作権」については次の点にも注意

- ※著作者の了解なしにはできないこと
- ・みんなに見せる
- ・著作者の名前を公表する
- ・作品を変えること



インターネット上では、広く世界中に公開される可能性があり、著作権・肖像権を守って発信しなければならないという個人の権利を尊重する意識をもたせることが大切です。

## Googleフォーム

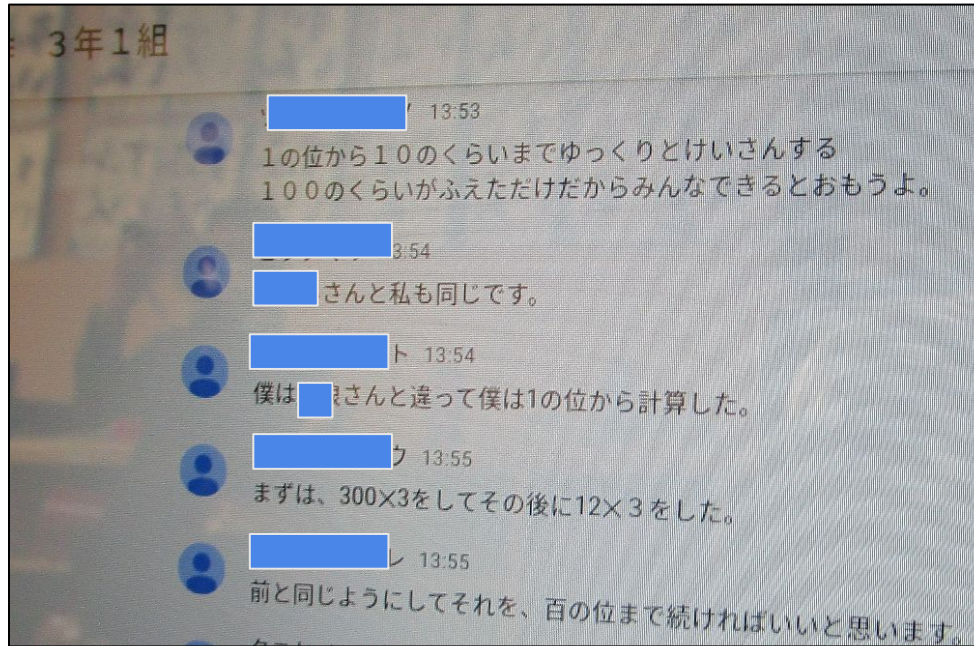


アンケートを通して「自分や他人に関する個人の情報は、他人にもらさない」等、情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける機会とします。

# 3-8 Google Classroom・ドライブで情報モラル

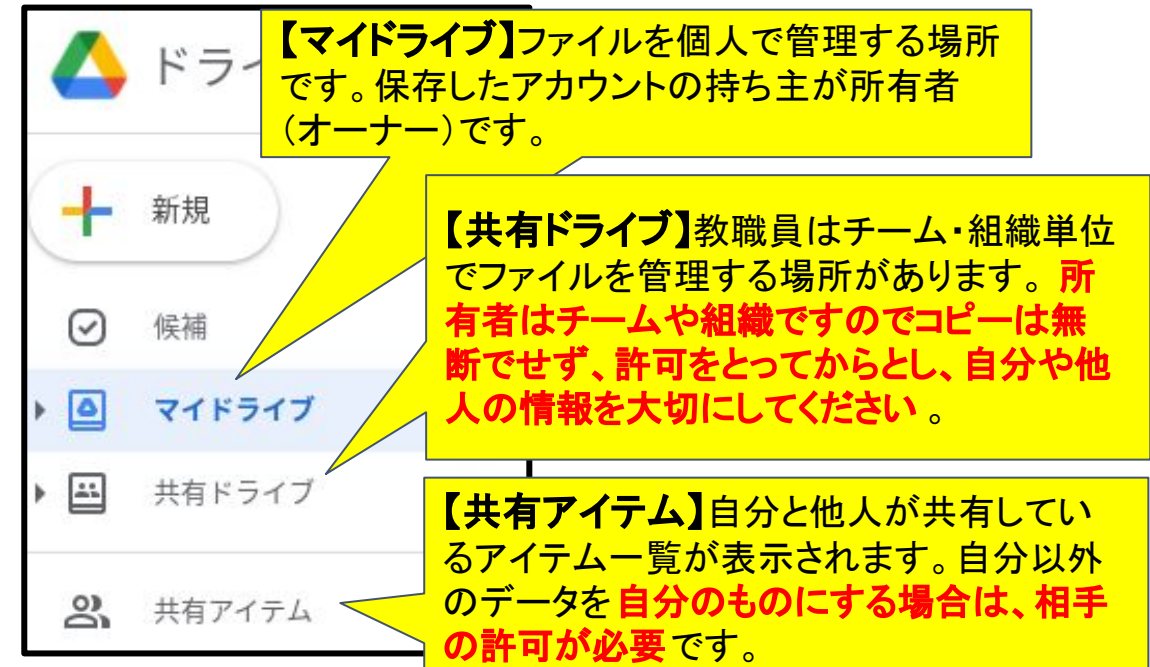
Google Classroomのストリームは「掲示板」的な要素としての情報発信が便利なツールです。ストリームの投稿等を通して発信する情報や情報社会での行動に責任をもち、情報社会の一員として、公共的な意識をもたせることにつなげます。Googleドライブは、クラウド上のストレージ(保存場所)としてデータを保存・共有が可能です。一方でファイルの共有等には注意が必要ですし、共有しているデータの扱いから、情報を大切にすることを高めます。

## Google Classroom



Google Classroomのストリームに**情報を発信する時は「自分の責任や義務を考え行動する」**ことについて児童生徒の発達の段階に応じた指導が必要です。

## Googleドライブ



Googleドライブの「マイドライブ」「共有ドライブ」「共有アイテム」の役割の違いを児童生徒に、徐々に認識させることで**情報を大切に**する意識を高めます。

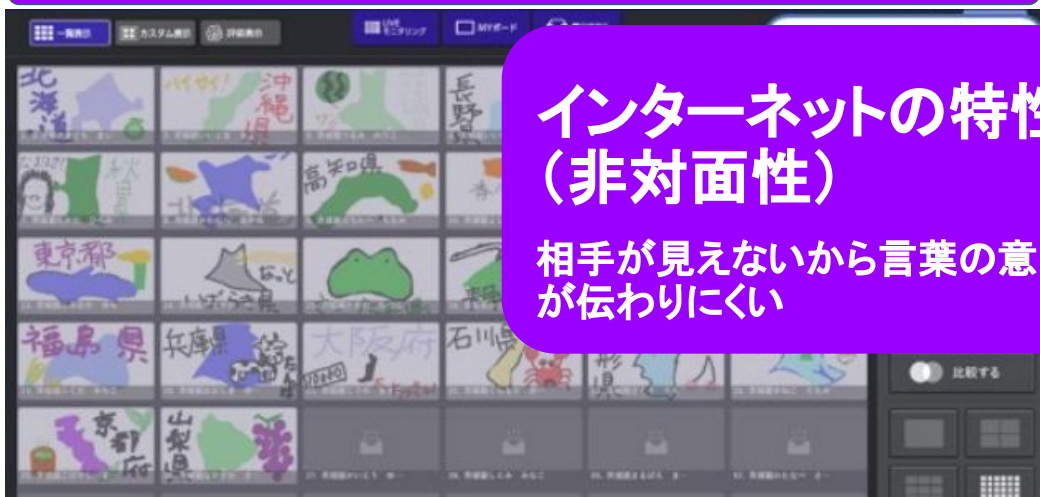


## 3-9 ミライシードで情報モラル

「オクリンク」は、表現する活動を支援するソフトで、小学校1年生からも手書きで記入した内容を、クラス全員に送信することも可能です。一方で、使い始めの頃には、相手に誤解と受け取られてしまう表現や傷つけてしまう内容を送ってしまうことも考えられます。**インターネットの特性である「非対面性(相手が見えないので誤解を受けやすい)」**をオクリンクの活用から実感させます。

また、「ドリルパーク」では、利活用としてのインターネット(クラウド)の特性「記録性」を体験を通して実感させ、学習履歴の活用から**クラウド利用の良さを実感させる**ことにつなげます。

### オクリンク



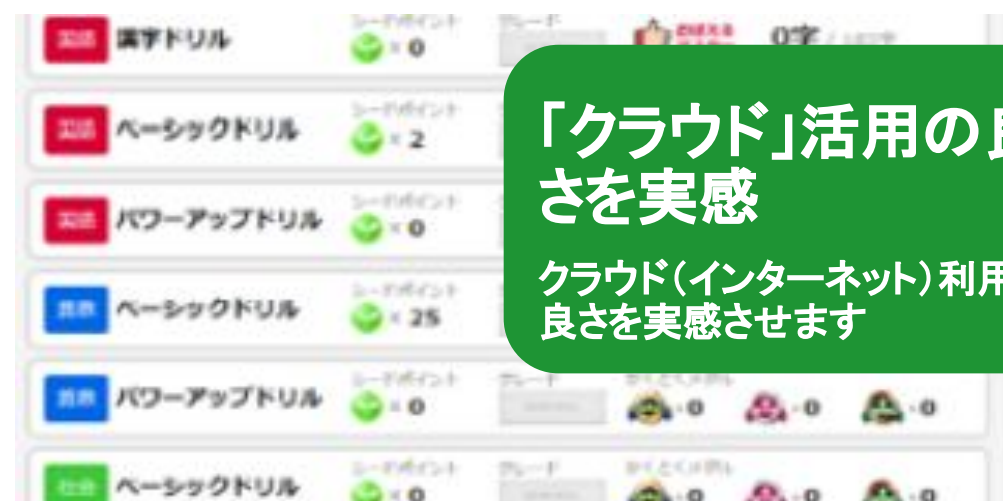
#### インターネットの特性 (非対面性)

相手が見えないから言葉の意味が伝わりにくい

言葉等だけだと伝わりにくいいため、受け手を意識した情報の発信(相手に伝わりやすい表現)を少しずつ意識し繰り返すことで、情報発信に対する責任感を高めることにもつなげます。



### ドリルパーク



#### 「クラウド」活用の良 さを実感

クラウド(インターネット)利用の良さを実感させます

自動採点機能など、デジタルで効率よく学習を進められます。また、AI機能により、個人の課題にあった出題されるなど、クラウド利用をしているからこそ、学習が豊かになるという実感につなげます。





# 3-10 Google Meet、YouTubeで情報モラル

GoogleMeetでは、遠隔地との外部講師とつなげたり、学びの保障として家庭とつなげたりすることができます。YouTubeでは、「懇談会等の保護者への説明配信」「理科の実験動画」等、幅広い活用が考えられます。GoogleMeetやYouTubeには、インターネットを通して動画等を配信するため体験を通じた情報モラル教育を進めるチャンスです。次の2つがポイントです。

- ①「肖像権」や「著作権」についての意識を高め「日常的なモラル」を育むことにつなげる
- ②「記録が残る」等のインターネットの仕組みの理解させる

## GoogleMeet



### 授業配信の実施には

■事前に配信の目的等を見生徒に伝えることを通して「肖像権」等の許諾を保護者から確認していること「配信をする時は許可を得る」「肖像権は大切な人権である」等の意識を高めることにつなげます。「友達を大切に思うなら肖像権を大切にしたい」等の心を育むきっかけとしたいです。

## YouTube



### 保護者への配信の実施による学校からのお便り配布時には

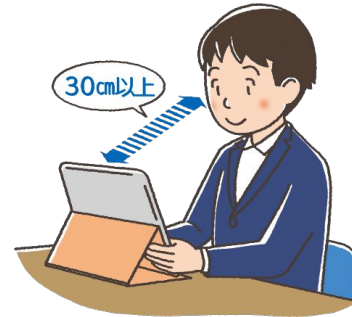
■保護者の方々にも「世界に公開されない限定配信であること」「他人にURLを教えない」等の約束を守っていただくことを伝えていることから、「肖像権」等の大切さに対する意識を高めます。

「スクリーンショット」機能を使って、私的なSNSに送信しトラブルになった事例等から、「**広がる**」「**記録が残る**」等のインターネットの特性を理解するとともに、危険な行動、他人に迷惑をかける行動をしないよう児童生徒に注意を促す機会を作るとともに、「**学習を豊かにする便利なツールであること**」を再確認することが大切です。

## 3-11 健康面に配慮した端末の使い方

ステップ0から引き続き健康面に配慮した指導が必要です。

- 端末を使用する時は姿勢に気をつけさせる
- 端末を見る時は、目から**30cm以上**離させる
- **30分に1回**はタブレットから目を離させる
- 部屋の明るさ、画面の明るさを調整する
- 寝る前の端末(ICT機器)の使用を控えさせる



目の疲労への影響、端末(ICT機器)の活用による児童生徒の姿勢の悪化への影響を考慮した指導をお願いします。端末を使う時の健康面でのポイントを、児童生徒本人の習慣として身につけられるよう指導が必要です。また、家庭における端末(ICT機器)の利用の仕方など、家庭での保護者による指導を促すことも重要です。

色覚異常を有する児童生徒は、男子では20人に1人、女子では500人に1人いると言われており、学校で把握できていない可能性もあります。図や文字を示すときに、色名のみで指示しないようにする、色合いだけでなく、コントラストも変えるといった対応が有効です。

※参考 ● 「学校保健」ポータルサイト (<http://www.gakkohoken.jp/>)

- 色のバリアフリーを理解するための Q&A

([http://www.gakkohoken.jp/modules/pico/index.php?content\\_id=7](http://www.gakkohoken.jp/modules/pico/index.php?content_id=7))